

CLOSE
UP

A案

倶知安の四季と
つながる舞台の駅

倶知安の美しい四季折々の風景だけではなく、地域住民の暮らしの営みが投影される舞台のようなデザイン

倶知安町
推薦案

B案

羊蹄の風景が彩る
壮麗な佇まいの駅

倶知安の四季折々の壮麗な自然美が彩る景観と調和し、世界的リゾートの玄関口をイメージしたデザイン

C案

ふるさとの雄大な山々に
呼応する稜線の駅

地域の顔である羊蹄山やニセコ連峰の雄大さと調和するように、山々の風景をおおらかな稜線で表現したデザイン

こうして決まる駅舎デザイン ～北海道新幹線 倶知安駅の場合～

文：吉谷友尋（鉄道ライター）

新幹線の新規開業に際し、多くの人の目を惹くのが新設された駅舎だ。地域の魅力を表現するデザインが取り入れられた新駅舎は、地元のシンボルにもなる。では、駅舎デザインが決まるまでには、どのような過程があるのか。北海道新幹線の倶知安駅を例に、駅舎のデザインが決まるまでを追ってみた。

●羊蹄山がまちのシンボル！
倶知安はニセコエリアの玄関口

北海道を代表する名山、羊蹄山。「蝦夷富士」とも呼ばれる標高

1,898mの名峰は日本百名山に選ばれており、エゾモモンガやエゾユキウサギをはじめ、多数の動植物が生息している。この羊蹄山を有する倶知安町の役場を訪れ、まちづくり新幹線課・新幹線係の木村哲也係長と小林武史主事にお話を伺った。

まず北海道新幹線が倶知安駅に停車することが決まり、現在の倶知安駅付近に新たな駅舎が建設されることとなった。新駅の駅舎は世界的なスノーリゾート地になっているニセコエリアの玄関口であり、地域のシンボルとしての役割を果たすことが

期待されている。

同町では2014年頃から、倶知安駅の周辺整備に関する協議が始まっていた。協議の結果を踏まえ、倶知安町では駅のデザインコンセプトを決める段階に入っていく。



倶知安町のイメージキャラクター「じゃが太くん」（左）と「じゃが子ちゃん」（写真提供：倶知安町）

●駅のコンセプトを考える委員会を設置

倶知安町は2020年度に、「北海道新幹線倶知安駅駅舎デザインコンセプト検討委員会」を立ち上げた。通常は鉄道・運輸機構（JRTT）からのデザインコンセプト作成依頼を受けたのち、各市町村で委員会を設置するのだが、倶知安町はこれまでの先行事例を確認して、JRTTからデザインコンセプト作成依頼が来る前に委員会を作っている。デザインコンセプト検討委員会では北海道大学大学院の木村宏教授を委員長とする、

8名の委員によりデザインコンセプトの策定や駅前広場、都市施設の整備に向けた検討などの議論が行われた。第1回の委員会は同年8月に開催。「駅自体に人が集まる魅力を持っている必要がある」という基本意見を確認し、町民アンケートの実施方法などについても議論された。検討の結果、アンケートの実施対象を「若い人の意見が重要」と15歳以上にしたほか、駅へのアクセス方法についての設問の追加や、駅に期待する機能の設問を項目選択から自由記載に変更するなど、町民の意見をしっかりと集計する

ための細かな調整が行われた。

第2回からは、少しずつコンセプトが具体化していく。委員の多くから「羊蹄山」というキーワードが上がり、それらの意見を踏まえてコンセプトを考えることになった。

さらに同年9月、町民2,000人を対象にアンケートが実施された。送付全体の34.1%から回答があり、女性の回答者がやや多かったという。

アンケートを見ると、「落ち着いた」「暖かみのある」「自然的」「機能的」「周囲と調和した」といった

※デザインはイメージです。



「北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会」での協議の様子
(写真提供：倶知安町)

項目が6割以上の人に支持されている。駅舎としてふさわしいと思うデザインとして、「羊蹄山を眺望できるデザイン」が最も多く選ばれた。

2021年1月に、第3回の委員会が行われた。デザインコンセプトを決定する会議だったため、採用する言葉や表記、長さなどについて委員の議論が白熱した。協議の結果、デザインコンセプトは「羊蹄の四季の恵み～ふるさとと世界が出会う駅～」に決定。第3回委員会はデザインコンセプト検討委員会としては最後の開催で、この決定をもとに要望書が作られることになった。そしてコンセプトのほかに附帯意見も加えられ、2022年7月にJRTTへ提出された。

●さらに広範囲の検討を進める

2021年度に入り、倶知安町では新たに「北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会」を立ち上げ、デザインコンセプト検討委員会の機能を継承するとともに、委員を8名から10名に増員。駅前広場や都市施設の議論に加え、駅周辺のにぎわい創出に向けた取り組みについて協議することとなった。

委員が増えたため、日程調整は大変だったという。委員の中には北海道から活動拠点を本州に移した人もおり、オンライン打合せなどで対応した。

駅周辺整備推進委員会は21年度中に6回開かれ、木村委員長が以前携わった北陸新幹線の飯山駅を視察するなど、新たな視野も取り入れた。また、都市施設にどのような機能を持たせるかにも議論が及んだ。

2022年度に入ると、倶知安町はJRTTに対し、デザインコンセプトに関する要望書を提出した。この年度中にも委員会が5回開かれ、駅舎の建設用地に含まれる旭ヶ丘総合公園内の「くとさんパーク」内にある転車台をどのようにしていくかなど、より具体的な議論が行われた（2023年度にVR化が完了）。一方、JRTTは要望書を受け取り、倶知安町のコンセプトをもとに駅の外観デザイン素案の作成に着手した。

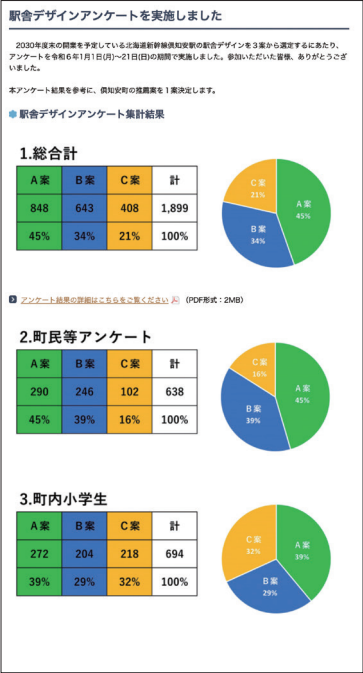
2023年10月、JRTTが倶知安町に外観デザイン素案を3案提示した。

A案は全面をガラスで構成した「倶知安の四季とつながる舞台の駅」。窓に倶知安のまち並みや羊蹄山が反射・投影するようになっている。B案は「羊蹄の風景が彩る壮麗な佇ま

いの駅」とし、景観や四季との調和を図った。そしてC案は「ふるさとの雄大な山々に呼応する稜線の駅」と題し、雄大な山々と倶知安の力強さを感じられるデザインとなった。

外観デザイン素案が提示されたことを受け、JRTTの担当者とともに町内の中学校や高校を回って説明会を開いた。若者らしい柔軟な発想から出てきた質問が多数寄せられ、「雪対策はどのようになっているのですか」「建設費は3案とも同じくらいなのですか」など、具体的かつ確かな内容も多かったようだ。

寄せられた意見を見ると、A案についてはガラスを使用した眺望に優れたデザインが特徴的だが、「雪で割れたりしないか心配だ」という意見や「いや、ガラスだからこそ眺望が良くなって素敵ではないか」など、賛否両論の議論が起こったという。2024年1月に町民等アンケート調査が行われ、倶知安町民や町内の小・中学生と高校生らを中心に1,899票が集まった。アンケート結果（ページ上部）を見てみると「町民等」および「中学生」、「高校生」はA案とB案の順で多かったのに対し、「小学生」だけはA案とC案の順で多い結果となっている。子



2024年1月1日～21日に実施された町民等アンケートの結果(倶知安町ホームページより)



2023年12月19日に倶知安中学校で行われた説明会。JRTTから説明し、多くの質問や意見が寄せられた(写真提供：倶知安町)



2024年1月15日に倶知安農業高校で行われた説明会。JRTTから説明し、アンケートへの回答をいただいた(写真提供：倶知安町)



2024年1月16日に倶知安高校で行われた説明会。倶知安農業高校同様に説明が行われ、アンケートへの回答をいただいた(写真提供：倶知安町)

どもと大人の着眼点の違いが、大変興味深かった。

全世代ではA案を支持する票が多く、848票を集めて最多得票となった。アンケート結果を踏まえ、倶知安町はA案を推薦案に決定。同年6月にJRTTに推薦書を提出した。

JRTTではデザイン推薦案を受け取った後、内装を含めたデザインの詳細検討を行うとともに設計全般を深度化させる。設計が完了すれば、いよいよ工事着工に向けた準備に移る。

●地元の期待も膨らむ倶知安駅のこれから

倶知安町の木村係長と小林主事に倶知安駅へのこだわりと、現在、駅周辺整備推進委員会で進めていること

を聞いてみた。

新たにできる倶知安駅は新幹線による観光客輸送を想定しているため、トイレや通路など、公共設備の広さにはこだわっているという。現在の駅周辺整備推進委員会では都市施設の機能や配置、東西駅前広場の配置や雪対策などについて議論を進めている。

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）が開業すると、東京から倶知安まで鉄道で移動する場合の時間と、空路を使って新千歳空港から倶知安へアクセスする場合を比べても同等程度の時間になるため、どれだけの人が新幹線を使ってくれるかがポイントだという。また、新幹線によってつながる東北地方との新たな交流にも期待している。



2024年6月24日、A案を推薦案と決定し、JRTTに推薦書が渡された

倶知安駅からJR函館本線に乗り、札幌へ。インタビューを振り返りながら車窓を眺めていると、工事現場が見えた。新幹線が開業する頃に、倶知安はどのようなまち並みになっているのだろう。想像するのが、とても楽しかった。

